

【参考資料】

第153回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成30年 年間報告（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年12月31日までの約1年
2. 新規HIV感染者報告数は940件で過去13位
3. 新規AIDS患者報告数は377件で過去14位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,317件で過去13位

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが670件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが157件（全HIV感染者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが205件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが89件（全AIDS患者報告数の約24%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に40歳以上が多い。

【検査・相談件数の概況（平成30年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は130,759件で過去10位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は127,830件で過去19位

《まとめ》

1. 平成30年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、2年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが7割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年と比べて減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用していただきたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した可能性がある者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。

大阪市におけるHIV感染の状況について（平成30年）

大阪市におけるHIV感染者・エイズ患者（平成30年1月1日～12月31日）の報告状況は次のとおりです。

(1) 年次別推移

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
～平成元年	0	0	0
平成2年	3	2	5
平成3年	4	1	5
平成4年	14	3	17
平成5年	7	1	8
平成6年	14	4	18
平成7年	7	1	8
平成8年	5	2	7
平成9年	13	6	19
平成10年	25	5	30
平成11年	30	13	43
平成12年	31	7	38
平成13年	58	17	75
平成14年	55	16	71
平成15年	68	11	79
平成16年	99	17	116
平成17年	100	16	116
平成18年	118	12	130
平成19年	130	28	158
平成20年	164	31	195
平成21年	147	45	192
平成22年	165	49	214
平成23年	140	50	190
平成24年	108	32	140
平成25年	145	40	185
平成26年	130	42	172
平成27年	149	41	190
平成28年	119	31	150
平成29年	100	33	133
平成30年	95	28	123
合計	2243	584	2827

注) 後天性免疫不全症候群の予防に関する法律施行後(平成元年2月17日以降。平成11年4月1日より「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に統合)血液凝固因子製剤が原因とされる方は、法による報告から除外されています。

(2) 感染経路別 HIV感染者・エイズ患者報告数

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
異性間性的接触	7	4	11(9.0%)
同性間性的接触	79	20	99(81.1%)
静注薬物使用	0	0	0(0.0%)
母子感染	0	0	0(0.0%)
凝固因子製剤(注)	0	0	0(0.0%)
その他	4	0	4(3.3%)
不明	5	4	9(7.4%)
合計	95	28	123

(3) 国籍・性別

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
男性 (日本人)	85	27	112
(その他)	8	1	9
(不明)	0	0	0
女性 (日本人)	2	0	2
(その他)	0	0	0
(不明)	0	0	0
小計 : 男性	93	28	121(98.4%)
女性	2	0	2(1.6%)
合計	95	28	123

(4) 年齢区分

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
20歳未満	1	0	1
20歳代	34	3	37
30歳代	36	9	45
40歳代	18	11	29
50歳代	4	4	8
60歳以上	2	1	3
合計	95	28	123

(5) 感染地域別

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
国内	83	25	108
海外	6	1	7
不明	6	2	8
合計	95	28	123

大阪市におけるHIV感染の状況について(累計)

大阪市におけるHIV感染者・エイズ患者(累計;平成元年2月17日～平成30年12月31日)の報告状況は次のとおりです。

(1)HIV感染者・エイズ患者報告数(累計)

	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
	2243	584	2827

(2)感染経路別(累計)

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
異性間性的接触	265	113	378
同性間性的接触	1793	364	2157
静注薬物使用	6	1	7
母子感染	2	1	3
凝固因子製剤(注)	0	0	0
その他	42	20	62
不明	135	85	220
合計	2243	584	2827

(4)国籍・性別(累計)

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
日本人 男性	2049	545	2594
女性	34	6	40
その他・不明 男性	124	20	144
女性	36	13	49
合計	2243	584	2827

(3)年齢区分(累計)

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
20歳未満	29	2	31
20歳代	801	71	872
30歳代	862	172	1034
40歳代	383	175	558
50歳代	105	109	214
60歳以上	63	55	118
合計	2243	584	2827

(5)感染地域別(累計)

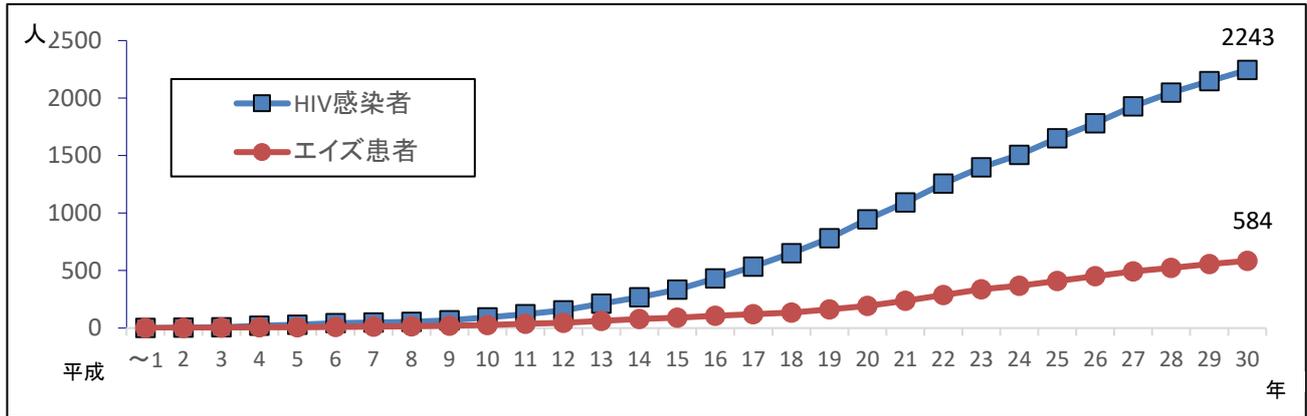
区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
国内	2017	475	2492
海外	86	33	119
不明	140	76	216
合計	2243	584	2827

注)後天性免疫不全症候群の予防に関する法律施行後(平成元年2月17日以降。平成11年4月1日より「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に統合)血液凝固因子製剤が原因とされる方は、法による報告から除外されています。

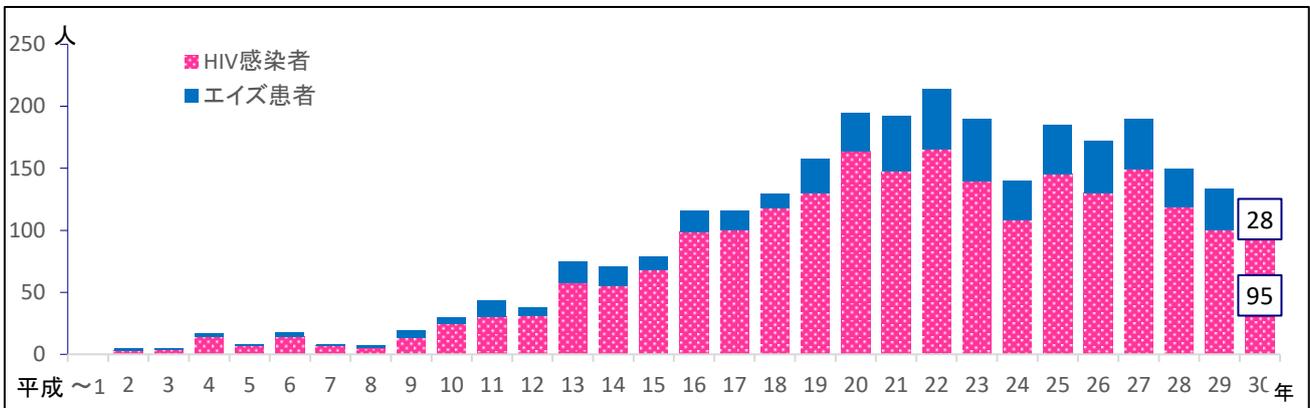
大阪市におけるHIV感染の状況について(平成30年)

(平成元年2月17日～平成30年12月31日診断届出分)

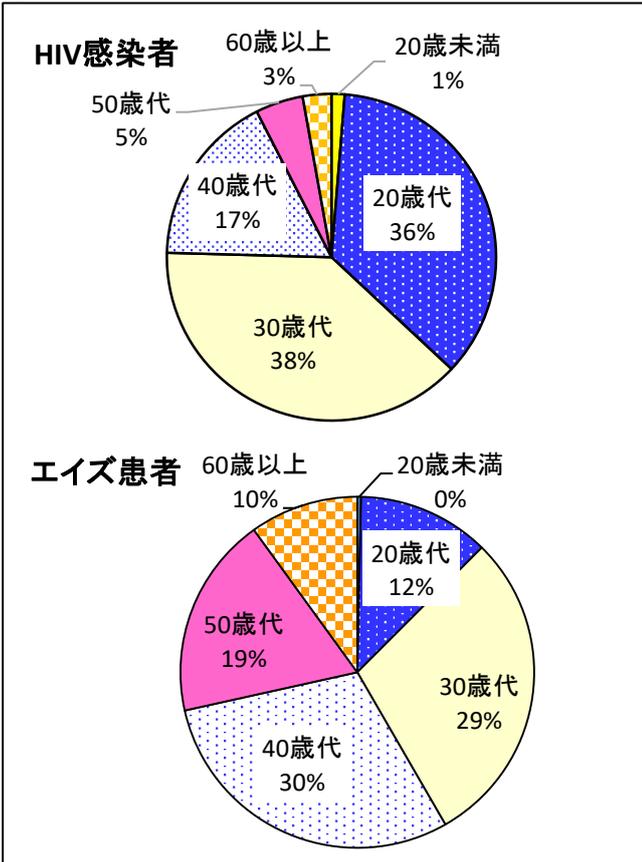
①HIV感染者・エイズ患者の年次推移<累計>



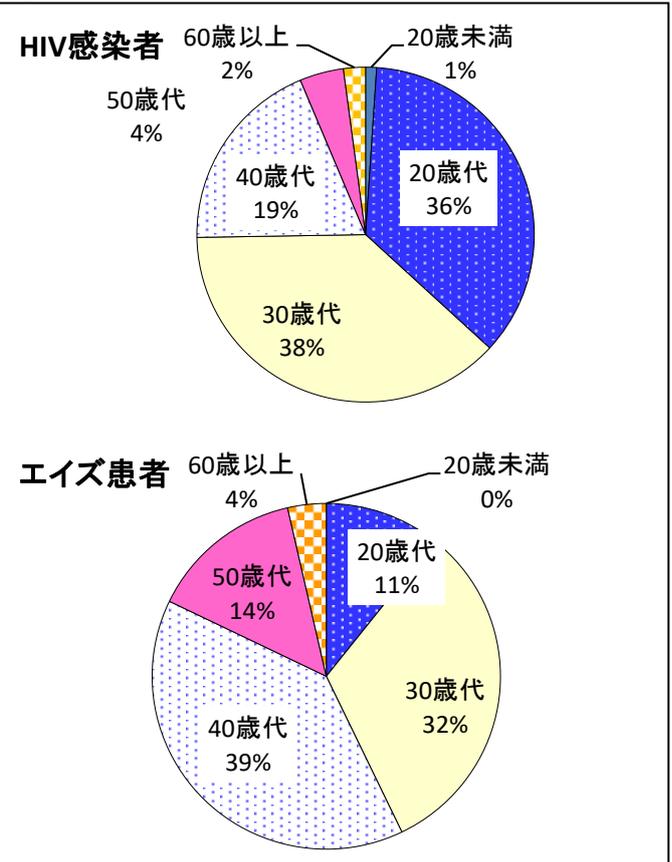
②HIV感染者・エイズ患者年次別届出数推移



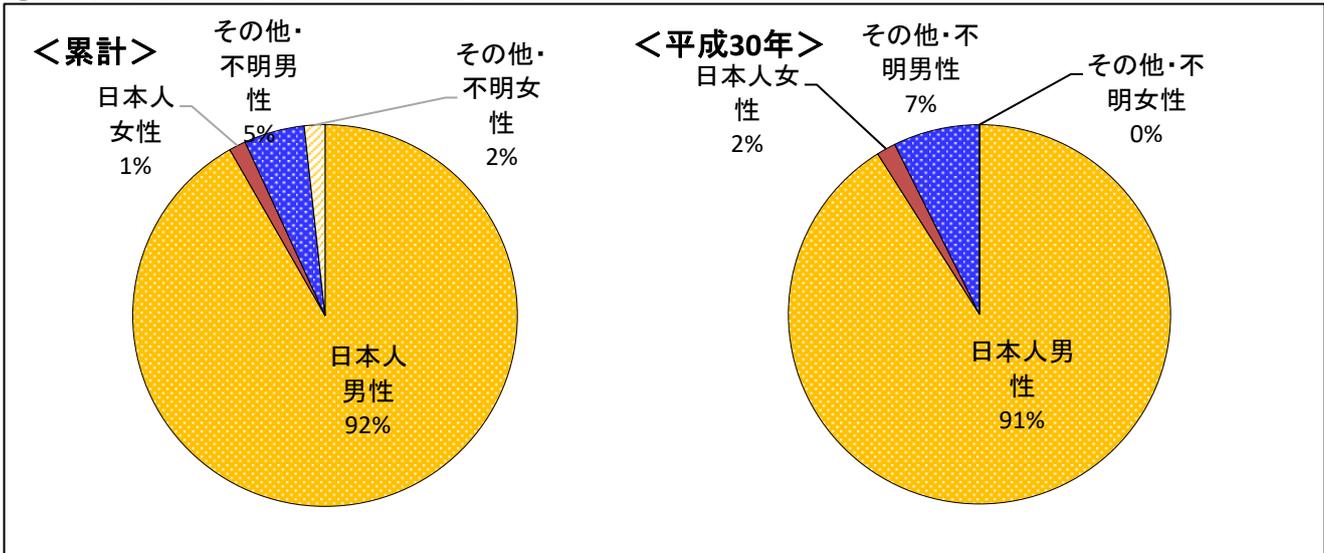
③年齢区分 <累計>



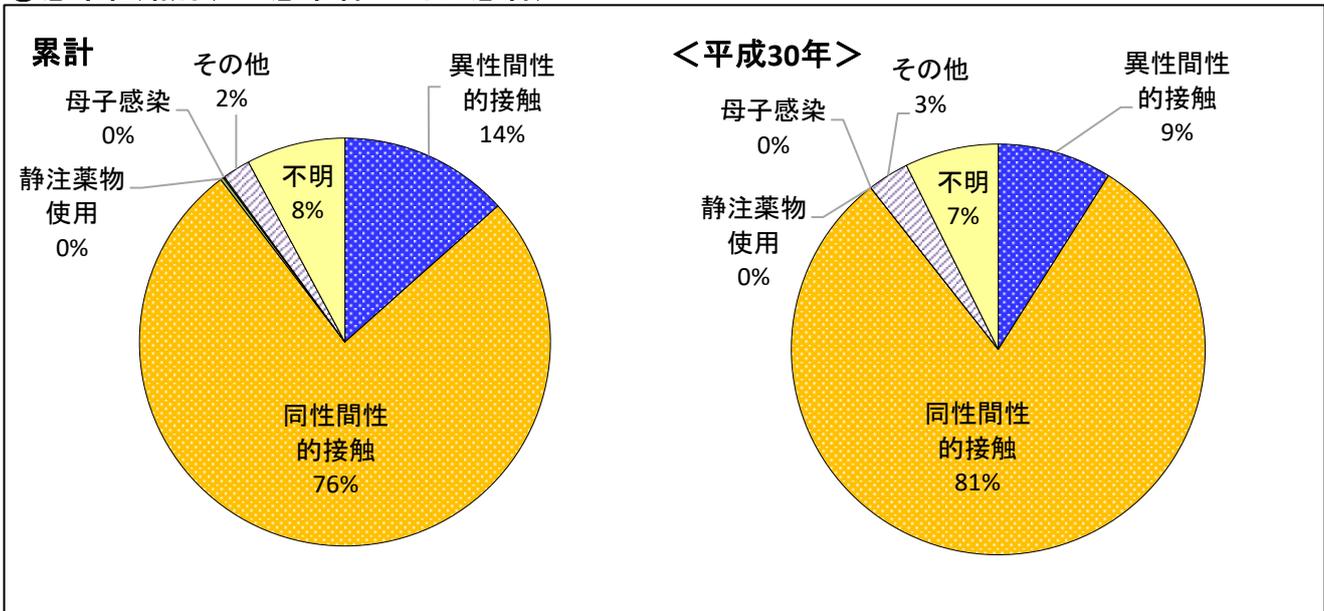
④年齢区分 <平成30年>



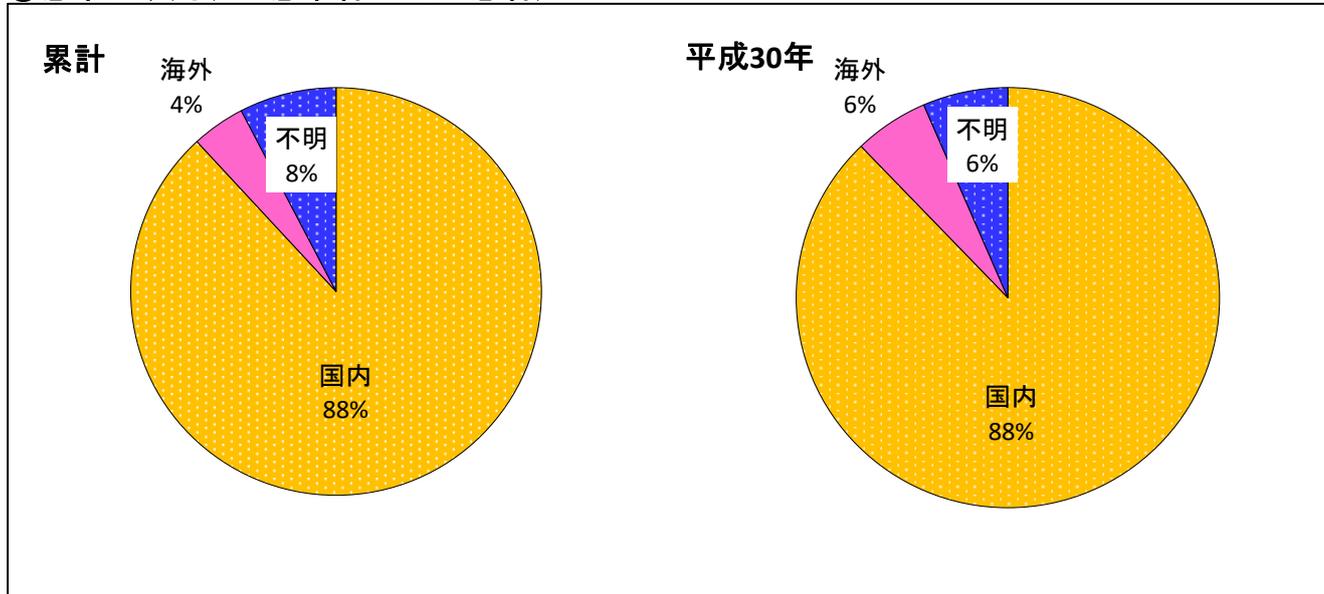
⑤国籍・性別(HIV感染者・エイズ患者)



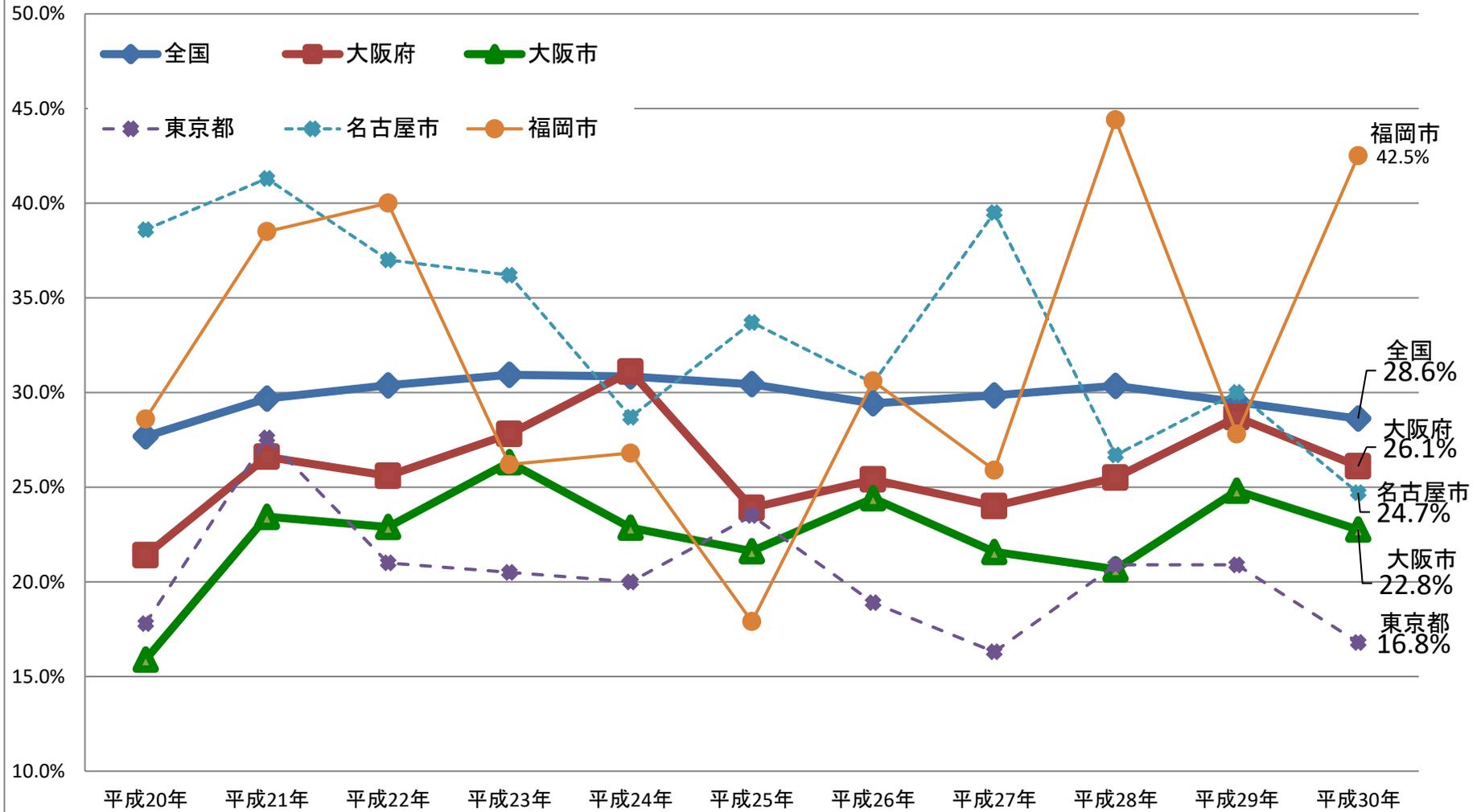
⑥感染経路別(HIV感染者・エイズ患者)



⑦感染地域別(HIV感染者・エイズ患者)



新規報告数(HIV感染者+エイズ患者)に占めるエイズ患者の割合



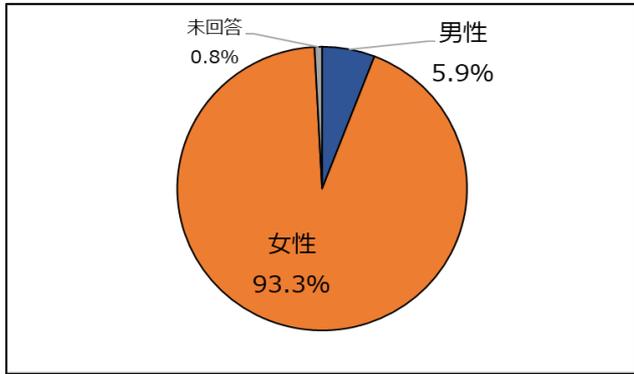
平成30年度「学校におけるHIV・エイズ、性教育講習会」 学校現場でのHIV/エイズ・性教育を考える ～LGBTの理解を深めて～ アンケート結果

平成30年12月20日に宝塚大学看護学部教授の日高庸晴先生を講師にお招きし、講習会を開催いたしました。
昨年度よりさらにたくさんの先生方にお越しいただきました。 アンケートへのご協力ありがとうございました。

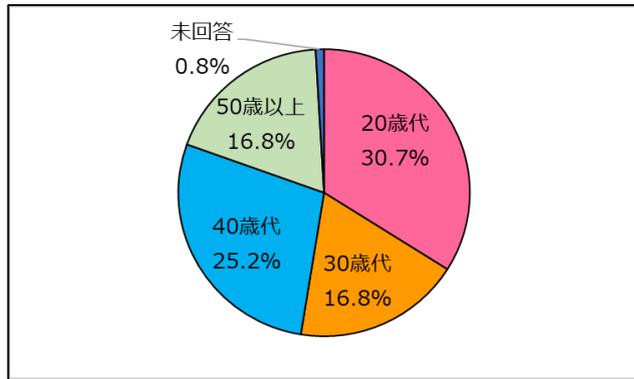
大阪市保健所 感染症対策課 06-6647-0656

参加者数 306人
アンケート回答者数 238人 回答率 77.8%

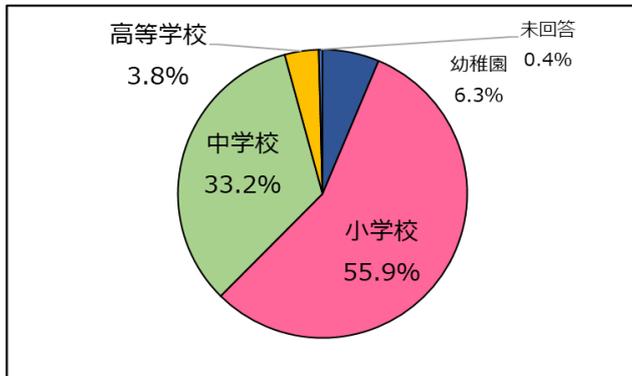
受講者の性別



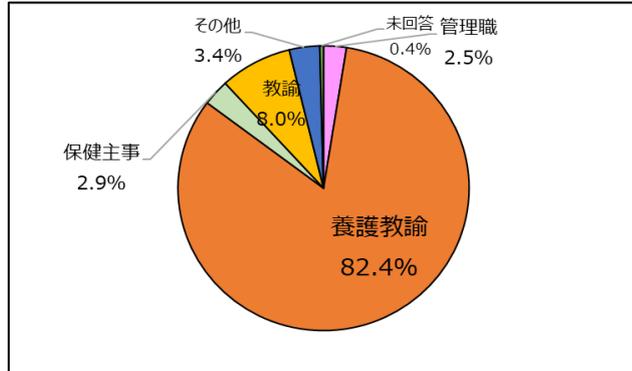
受講者の年代



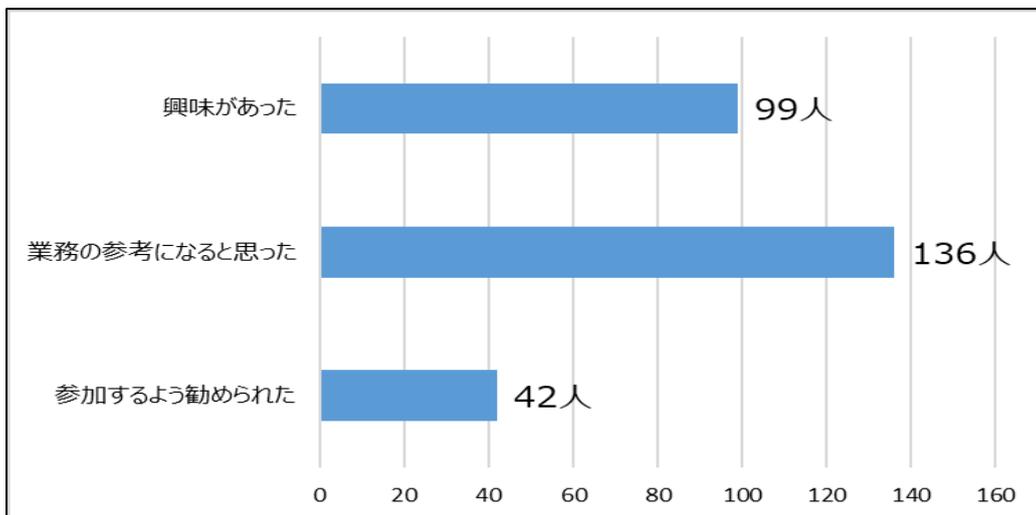
受講者の校種



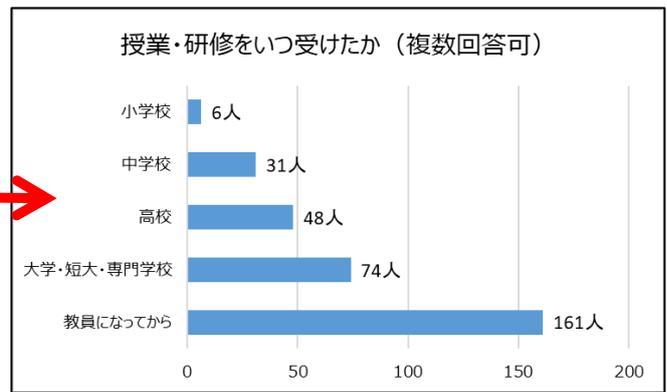
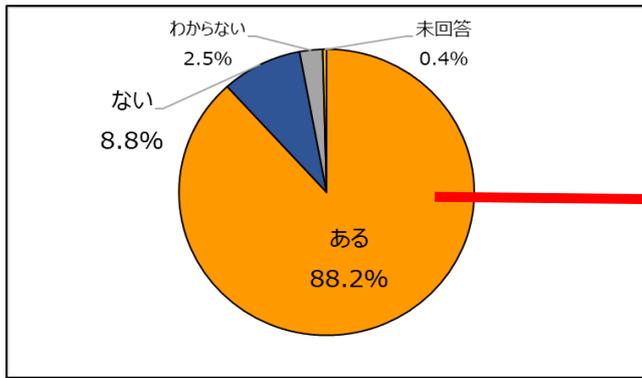
受講者の役職



今回の講習会に参加しようと思ったきっかけは何ですか（複数回答）



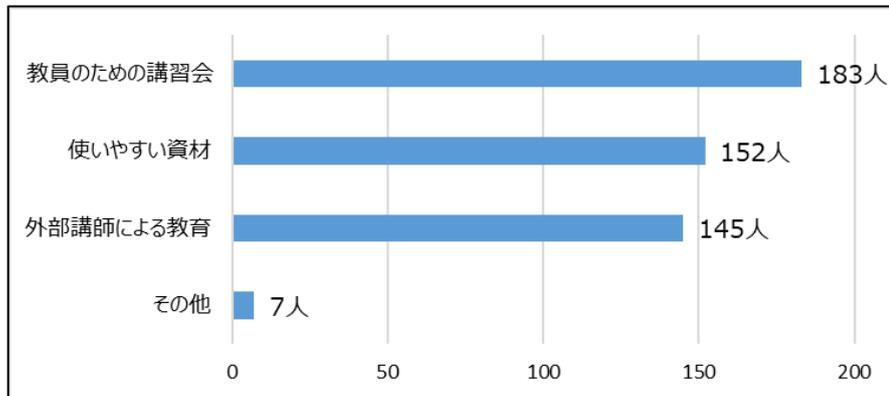
これまで、HIV・エイズに関する授業や研修を受けたことがありますか



HIV・エイズに関する知識

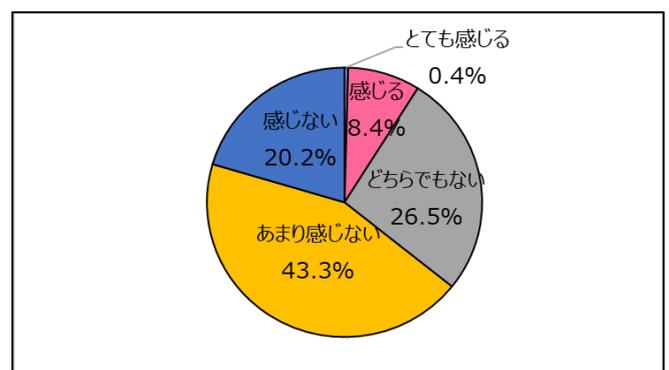
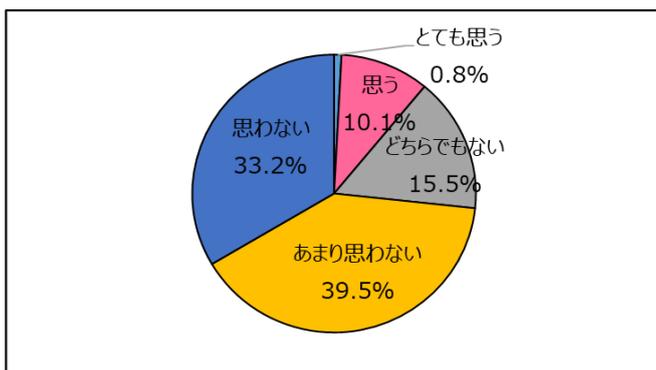
	238人中	正答数	正答率
HIVに感染したヒトは全員エイズを発病する	×	204	85.7%
免疫機能が低下すると、感染症や悪性腫瘍（がん）にかかりやすくなる	○	209	87.8%
食器の共用や入浴、一緒にプールで水泳することでHIVに感染することはほとんどない	○	218	91.6%
HIV感染の予防はコンドーム使用がきわめて有効である	○	226	95.0%
大阪市では匿名・無料でHIV検査（エイズ検査）を受けることができる	○	223	93.7%
通常のHIV検査では、感染から2～3か月経過しないと感染しているかどうか分からない	○	112	47.1%
HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった	○	215	90.3%
最近では、HIV感染者やエイズ患者への偏見・差別的な事件はまったく起こっていない	×	215	90.3%
HIV感染者やエイズ患者は、対人関係の悪化や孤独といった心理的な苦しみを生じやすい	○	205	86.1%
自分が感染症にかかっているときは、エイズ患者等免疫力が落ちている人が周囲にいる可能性を考え、うつさな いよう気をつけるべきである	○	180	75.6%

学校でHIV・エイズ、性教育を実施するために必要なことは何ですか（複数回答）

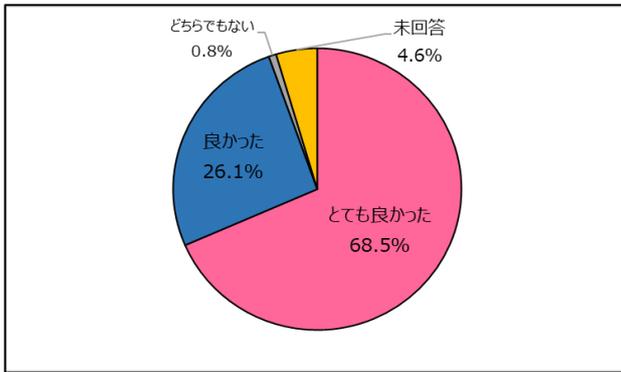


あなたの学校ではHIV・エイズ、性教育は十分
行われていると思いますか

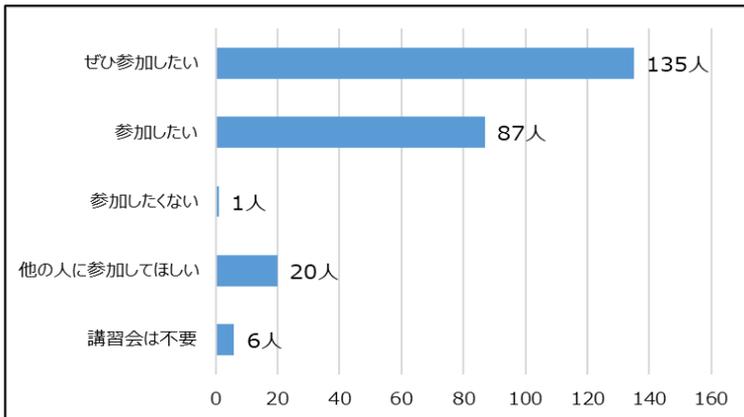
あなたの学校ではLGBTに配慮した教育が
できていると感じますか



本日の研修はいかがでしたか



今後もこのような研修会に参加したいと思いますか（複数回答可）



学校で活かそうなこと

- ・学校でできる具体的な支援がわかった。本人の気持ちを確認することが大切だとわかった。
- ・LGBT当事者のいじめ被害、不登校等の経験率について初めて知った。

印象に残ったこと

- ・教師の言葉が子どもにとってとても影響があるとわかり、心して接しなければいけないと思った。
不登校の要因が教員の発言である場合もある。
- ・LGBTであることは「決める」「選ぶ」ではなく生まれ持ったものであるということ。
- ・アメリカのテレビ番組の動画を見て泣いてしまいました。自分ならどうするか考えさせられた。

HIV/エイズ・性教育に関する悩みや難しいこと

- ・大人（教員や保護者）の理解がない。
- ・性教育を実施する時に言葉選びが難しい。どの学年にどこまで伝えて良いのが悩む。

今後、講習会で取り入れてほしい内容

- ・小学校での性教育。
- ・校長会・教頭会での研修。まずは教員の意識改革が必要。
- ・当事者の声を聞きたい。

その他のご意見

- ・今回のような講習会に年1回参加したい。
- ・たくさんの教員（養護教諭以外）にもぜひ参加してほしい。